

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4672800044号		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム あったかハウス市来		
所在地	鹿児島県いちき串木野市大里3261番地1 (電話) 0996-36-5511		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月11日

【情報提供票より】 (21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤13人, 非常勤0人, 常勤換算13人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	370円 / 1日
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	預かり金として計上
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	10名	要介護4	1名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 85.2歳	最低 76歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院・ゆのもと記念病院歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体として、近隣の市や町に7箇所開設されているグループホームの1つで、相互の連携を取りながら研鑽し向上を図っている。職員は全員常勤採用し、法人内研修や勉強会など充実しており、一人ひとりの職員が責任を持つケアをしている。地域住民をホームの行事に招待したり、また地域の方が野菜や花を届けてくれたり、気軽に立ち寄ってもらえる関係が築かれ、積極的な交流に取り組んでいる。利用者と食事を一緒に作るなど、家庭的な雰囲気があり、支えあって楽しく仕事に励んでいる様子がうかがえる、名称の通りのあったかいハウスである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価で改善点はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者は評価の意義や目的を職員に伝え、全員で取り組み、自己評価で出た改善点を話し合い、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	定期的を開催し、多くの参加を得てホームの状況や利用者の様子など報告し話し合っている。会議での意見を受けて、災害時の地域住民への連絡網を作成するなど、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	面会時に何でも言える雰囲気を作り、要望や意見を聞くようにしている。家族会を年1回開催し、運営者も出席し、家族の不満や意見を聞く機会を設けている。要望等はミーティング等で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	母の日や誕生会などホームの行事に地域住民を招待したり、小学生との交流や中学生の体験学習、先生たちの研修など受け入れている。地元の人が気軽に花を届けてくれるなど交流ができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のペースに合わせた生活と地域住民や家族との交流を大切に支援することを念頭に、地域密着型サービスの役割を考えた理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をわかりやすくフロアの見やすい所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し、共有して全職員が理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母の日や誕生会などホームの行事に地域住民を招待したり、小学生との交流や中学生の体験学習、先生達の研修など受け入れている。地元の人が気軽に花を届けてくれるなど交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を職員に伝え、全員で取り組み、自己評価での改善点を話し合い、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、多くの参加を得て、ホームの状況や利用者の様子など報告し、話し合っている。会議での意見を受けて、災害時の地域住民への連絡網を作成するなど、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請や研修等の問い合わせなど日頃より連絡をとり、相談等している。毎月ホーム便りを届け、ホームの様子や行事など報告して、お互いに協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等でホームでの様子や健康状態など報告している。毎月、行事の写真など掲載したホーム便りと、担当スタッフからの個別の手紙と領収証等を同封して送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何でも言える雰囲気を作り、要望や意見を聞くようにしている。家族会を年1回開催し、運営者も出席し、家族の不満や意見を聞く機会を設けている。要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が常勤採用で、離職を最小限に抑える努力をしている。採用時に認知症の理解や対応など研修し、利用者に合わせて対応ができるよう努め、異動によるダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・法人内研修・ホームの勉強会など、段階に応じて受講できるよう計画を立て実施している。資格取得にも勤務への配慮など積極的に協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの見学や行事への参加、研修等で同業者と交流する機会がある。毎月、管理者・主任の勉強会で事例の検討等を通して、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、ホームの見学や管理者が介護老人保健施設や自宅を訪問し、馴染みの関係を作るように努めている。申し込み待機者には、時々お茶呑みに来ていただき、徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩として、野菜の植付け時期や季節の行事料理、しきたりなど教えてもらっている。夜勤の時など利用者から優しく声をかけてもらうなど、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントのほか、日々の会話や様子などから、思いや意向を把握し記録している。困難な利用者は、言葉や表情、家族や関係者からの情報などから本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当職員を決めており、それぞれの意見やアイデアを反映し、主治医や家族の意見を聞き、アセスメントや介護計画も全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日介護計画に沿ってモニタリングを記録し、毎月カンファレンスを実施し、計画の見直しを行っている。退院時など状況に応じて現状に即した計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、24時間健康管理体制がある。通院や受診介助・墓参り・自宅訪問など家族と相談し、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医や協力病院の受診など適切な受診ができるよう家族と協力して支援している。受診結果は電話で報告し、会話の内容を記録している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を定め、家族・主治医・看護師等関係者と話し合い方針を共有している。状態変化がある時は、そのつど本人や家族の思いを確認し、対応方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護について、採用時に誓約書を取り、情報の漏洩防止などに努めている。言葉かけや対応についてはミーティング等で話し合い、プライバシーの確保の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、「ダメ」や「待って」などの言葉を使わないよう努め、希望に添って過ごせるよう支援している。選べる場面を作り、日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや片付けなど手伝ってもらい、個々の好き嫌いや食事形態などに配慮し、職員もさりげなく介助しながら一緒に食事をしている。ホット・プレートを利用し入居者の前で焼くなど食事を楽しむことのできる支援もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望や体調にあわせて入浴を支援している。拒否傾向の方は声かけのタイミングや、職員の連携等工夫し入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や能力を把握し、新聞取り・ポストの確認・お茶碗拭き・配膳などできることをしてもらっている。歌やテレビ鑑賞・花見・外食など楽しみごとや気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社への散歩、スーパーへの買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。ホームの庭での日向ぼっこなど楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけないケアに取り組んでおり、日中は鍵をかけていない。入居者の様子を見守り、外に出られたら、さりげなく声をかけたり、ついて行くなど工夫し、自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と協力し入居者も一緒に消防訓練を行っている。地域住民との協力体制も築かれ、災害に備えて、水や非常食等準備している。スプリンクラーの設置も予定している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分摂取量をチェックし記録している。法人の栄養士の献立を基に調理しており栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や入り口に季節の花や人形など飾っており、季節感を感じることができる。台所から見えるフローアにはテーブルや椅子が配置され、畳コーナーに机やソファがあり、居心地よく過ごせる家庭的な雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇・家族の写真・ぬいぐるみ等を飾り、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。